

探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：福山市立一ツ橋中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
福山市立一ツ橋中学校	10	245
福山市立引野小学校	15	265
福山市立長浜小学校	8	153

(R5.11.1 現在)

1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

○テーマ

主体的に問いを見出し、自己探究を通して、資質・能力の向上を図る ～探究は自分の生活の中に～

○ねらい

実社会や実生活から課題を自分ごととして捉え、本やインターネット及び実際に体験する中で情報収集を行い、課題発見・解決力の育成を目指す。

(2) 資質・能力の設定について

各教科で育成を目指す資質・能力の三つの柱		
知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
校區で育成を目指す資質・能力		
学びに向かう力	課題発見 解決力	対話する力(一ツ橋) 自己・他者理解(引野) 自己効力感(長浜)
校區の状況		
テーマに沿った課題設定を体験やインタビューなどから児童生徒の声をもとに、課題設定を行い、主体的に考えを広げたり深めたりしている。	児童生徒は、自ら課題を設定し、様々な方法で解決しようとしている一方、活動を振り返り新たな課題へつなげることに課題がある。	自分たちで設定した課題について、友達や地域の人との交流から発想を持つことができる。しかし、各教科と関連を深めたり、生活に結び付けたりすることに課題がある。

(3) 取組について

【探究的な学習の充実に向けての取組】

《校區》

○共通して取り組む内容

- 探究サイクルを意識した単元開発
- 教師のファシリテート
- 評価基準(ルーブリック)の作成

○キーワード

- 「子どもたちの声」
児童生徒の声から課題設定、情報収集、まとめの方法を検討する。
- 「机からの脱却」
体験や実物から、探究のきっかけをつかむ。

- 「本物に触れる」

自分自身の課題に迫るものに触れる

《一ツ橋中学校 1年》

- 自分たちの地域の災害や災害が起きた時の身を守る行動から自分にできることは、何か課題を見つける。
- 地震による一次災害・二次災害について学習し、「自助・共助」について、地域や市の危機管理防災課の専門的な知識を持った方から情報の収集を行う。
- 学習した内容を学習発表会で、防災への取組を劇にして、他学年へ共有する。
- 企業訪問し、企業ごとの防災に対する取組を学ぶ。

《引野小学校 4年》

- 地球温暖化をくい止めるために、自分たちにできることを考え、児童から出た「ごみ問題」と「食品ロス」の課題に取り組む。
- 地元企業の方に協力してもらい課題に対する企業の取組を聞き、自分たちにできる具体的な方法を考える。
- 他学年や地域の方にも協力を依頼するなど活動を広げる。また、一人一人ができることを考え、家庭で実施していく。

《長浜小学校 6年》

- 長浜学区で受け継がれている長浜音頭を受け継いでいくために、6年生が秋フェスティバルで、全校へ広める計画を行う。踊り方の説明書や動画、歌、ポスターなど全校へ伝えるための方法を考え、作成する。
- 秋フェスティバルに向けての取組を振り返り、来年度の1年生へ伝えていくための計画を立てる。

【小中連携の取組】

- Google classroom の活用

端末で資料のやり取りやミーティングを行い、各学校の総合的な学習の時間の計画や実践内容等について交流する。

- 全職員による生活科・総合的な学習の時間の授業参観

校區一斉研修を計画し、授業を見る視点やルーブリック評価をもとに、参観後協議を行い、自らの授業や意識を振り返る。

【資質・能力の評価】

各教科で育成を目指す資質・能力の三つの柱の中で、校區で重点項目を決め、評価のためのルーブリックを作成する。

《重点項目》

- 知識及び技能
 - ③「探究的な学習のよさの理解」
- 思考力, 判断力, 表現力等
 - ①「課題の設定」, ③「整理・分析」
- 学びに向かう力, 人間性等
 - ②「主体性・協働性」(「対話する力」一ツ橋)
 - ①「自己理解・他者理解」(「自己・他者理解力」引野)
 - ①「自己理解・他者理解」(「自己効力感」長浜)

2 実践事例

《一ツ橋中学校 1年》

単元名：『災害から自分の身を守るために』

内容：災害から身を守るために、自分たちに何ができるか考

え、情報を収集、整理・分析し、まとめる。

○情報の収集

災害の中でも地震に焦点化し、地域のゲストティーチャーから「自助・共助」について話を聞き、学校が避難場所になった場合の理想の避難所を考え、ミニチュアを制作することができた。



<ゲストティーチャーとの会議>

○まとめ・表現

学習発表会を利用し、他学年に避難するときに必要な道具や避難の仕方を伝えることで、自分たちの意識だけではなく、他学年の防災の意識を高めることができた。

《引野小学校 4年》

単元名：『守ろう！地球の環境～わたしたちにできることⅠ～』

内容：地球温暖化が進んでいることを知り、「食品ロス」と「リサイクル」の視点で、自分たちにできることを考える。

○外部連携

制服販売を行っている地元企業の方から、ペットボトルのリサイクルだけではなく、児童にとって身近な服のリサイクル方法を教えてもらい、児童は自分たちにできることを考え、計画を練り直した。



<回収した服の引き渡し>

○発信及び服の回収

放送や朝会で他学年へ協力を依頼し、着なくなった服の回収を行った。朝と休憩時間に、当番を決めて、服の回収を児童玄関前や各クラスを回って行った。また、引野保育所へ協力依頼するなど、児童が目標達成に向けて、工夫しながら取り組んだ。

《長浜小学校》

単元名：『未来に伝える「長浜の伝統」』（6年）

内容：長浜音頭を受け継ぎ、自分たちで伝統を受け継いでいくための方法を考え、できることを考えた。

○課題設定

地域の人から長浜音頭があることや、長浜音頭を残していきたいが、難しく困っているという思いを聞いた。「思いを受け継いでいきたい。」という子どもの声から「長浜音頭を受け継ぐためにできることは何か」を課題として設定し、取り組んだ。

○秋フェスティバルの企画

踊り方の説明書や動画、歌、ポスターのチームに分かれて、他学年へ教える方法を工夫した。秋フェスティバルを通して、長浜音頭を受け継ぎ次へつなげていくことができた。



<他学年と踊りの練習>

3 研究の成果と課題等

実社会や実生活から課題を自分ごととして捉え、実際に体験する中で情報収集を行い、課題発見・解決しようと行動した児童生徒の変容を見とるために、アンケートを実施した。（1回目：7月、2回目：12月）

質問：総合的な学習の時間はおもしろいですか。

《一ツ橋中》

(%)

	1年	2年	3年
1回目	89.7	80.7	87.7
2回目	79.3	86.3	87.0
差	-10.4	+5.6	-0.7

《引野小》

(%)

	3年	4年	5年	6年
1回目	94.1	79.0	95.8	95.8
2回目	86.0	89.8	90.6	100
差	-8.1	+10.8	-5.2	+4.2

《長浜小》

(%)

	3年	4年	5年	6年
1回目	74.3	91.7	82.6	83.1
2回目	84.0	83.4	87.0	90.8
差	+9.7	-8.3	+4.4	+7.7

(1) 成果

- ・ 単元作成の際に、「子どもの声」「机から脱却」「本物に触れる」を意識した構成にすることで、児童生徒の授業に取り組む姿に変化が見られた。特に、外部との積極的な連携により、新たな知識に触れることで、児童生徒から新たな疑問が出てくるが増えた。
- ・ 一ツ橋中では、より課題が身近になるように単元の導入を工夫することで、生徒が自分ごととして課題意識を持ち、取組につなげることでできた。
- ・ 引野小では、外部との連携を密に行い、児童が困った時に教師が、児童の考えを引き出す声かけを行うことで、次に向かうことができ、活動中に新たな課題を解決しようとする児童が増えた。
- ・ 長浜小では、肯定的な回答が減少した学年があるが、児童は、体験活動や地域の方の思いに触れることで、より自分ごととして課題を意欲的に解決しようと取り組むことができた。

(2) 課題

学年によって差があるが、小単元で取り組む活動と単元課題の関連がしっかりできていない部分があった。

単元を進めていく中で、児童生徒から出てくる課題に対して柔軟に計画を変更することが不十分で、児童生徒の意欲を下げてしまった。

探究的な学びをより深めるために、各教科での学習内容との連携が不十分であった。

(3) 改善方策

活動前や、活動中にも、単元を通して目指す姿を児童生徒と共有することで、目標をしっかりと意識した活動にする。

育成したい資質・能力を明確にしながらも、児童生徒の実態に合わせて、柔軟に目指す姿や単元計画を変更する。

教科での学習内容と総合的な学習の時間で扱う内容を相互につなぐため、年間計画等で整理する。